

2012年 生野区介護家族ゆとりの会 再スタート記念講演会のご案内
「わたしの認知症介護」～介護と仕事と恋愛と～
タレント 遙 洋子さん



4月21日(土)午後6時30分開場 午後7時開演
会場：大阪市生野区民センターホール 入場無料

生野区介護家族ゆとりの会は、当時、痴呆性老人といわれた人と家族の会として平成5年(1993年)に結成されました。

故南栄会長のもと、施設の職員や、ヘルパーさんたちがボランティアとして参加し、認知症の家族を抱える人たちが、悩みを打ち明ける、助け合う、そのような会として活動してきました。また、家族を休ませるための旅行会を計画し、来年来れるかわからないどんな症状の重い人でも、バスに乗ってもらおうと取り組んだり、老人センターに誰も来なくても、毎月1回の相談を続けてこられました。しかし、平成18年(2006年)12月、南会長急逝の後、活動は休止状態になります。

2012年は、南栄会長の7回忌の年です。これまで関わってきた世話人があつまり、活動の再開を誓いました。世話人代表は、西脇邦雄がつとめます。

- 認知症の人と家族の介護と生活を支えています
- 認知症の正しい理解のために啓発活動をおこないます
- 介護者、家族のレスパイト(休息)事業に取り組みます
- 市民後見人の育成のために入門講座をおこないます



遙 洋子さん タレント・作家

大阪府出身・武庫川女子大学短期大学部国文科卒業

『ときめきタイムリー』(読売テレビ)で上岡龍太郎氏と共に司会を務め、本格的なタレント活動を開始、『たかじん胸いっぱい』(関西テレビ)に現在出演中。フェミニズム社会学を学ぶ過程で綴った『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』のベストセラーをきっかけに本格的な著作活動を開始。以降『結婚しません』、母親の看取りから描いた『死にゆく者の礼儀』などを著作。父親の介護に携わった経験から著した『介護と恋愛』ではキャリアウーマンが抱える現実を浮き彫りにし高齢者介護への視点も築く。NHKでドラマ化、芸術祭参加ドラマに選ばれる。日経ビジネスWEBサイトで“遙なるコンシェルジュ”を好評連載中。

生野区介護家族ゆとりの会 世話人代表 西脇邦雄
〒544-0015 大阪市生野区巽南3-7-31 社会福祉法人三秀會在宅事業部内
tel 06-6751-8238 fax 06-6751-8239

一般財団法人ジオ政策研究所 入会のご案内

一般財団法人ジオ政策研究所は、会員を募集しております。会員様にはセミナーへの優先参加等の特典がございます。入会ご希望の方は事務局までご一報ください。詳細はホームページをご覧ください。

年会費	
維持会員	120,000円～/1口(法人・個人)
賛助会員	30,000円～/1口(法人)
	10,000円～/1口(個人)

GIO NEWS

「がんばろう!!日本」
謹賀新年

新年をすこやかに迎えたいことを、心よりお慶び申し上げます。
東日本大震災と福島原発事故という未曾有の危機的状況のもとで、私たちの価値観、生活のあり方が問いなおされていると、多くの人が感じています。なかでも、注目を浴びたのは、「ブータン国王夫妻の訪問でした。「ブータンが幸せであるのは、農業技術を伝えた日本人のおかげです」と、感謝の言葉とさわやかな足跡を残して帰国の途につかれました。国民総幸福量GNH(Gross National Happiness)を国の目標に掲げ、国民のそれは80%近い高い値といわれています。

民族衣装への誇り、伝統文化への愛着、家族の絆へのこだわり、農業と経済の健全な発展、森林保護への国の手厚い政策、国民が納得する統治などを国の目標に掲げ、国王がそれを後押ししていることに強い信頼があるといわれています。経済力や軍事力に対して、文化や伝統などが持つ力をソフトパワーと呼びます。21世紀は、ソフトパワーが世界を制する時代になってほしい。

幸いに、なでしこジャパンの世界一や、自治体やボランティアが被災地に駆けつける姿は、日本の持つソフトパワーを世界に示したことでないでしょうか? 2012年も、そのようなヒトの持つ力を信じて、困難に挑んでいく一年にしていきましょう。

一般財団法人ジオ政策研究所 理事長 **西脇 邦雄**

とこれからの策調査会長代行

一般財団法人「ジオ政策研究所」設立記念パーティー開催!!



第II部 設立記念総会・懇親パーティー

平成6年、フセラシファスナー株式会社島田工さん、株式会社万代下元さんが呼びかけて発足したジオ経済クラブ。非営利型の一般財団法人として新たなスタートを切ることとなりました。仙石由人前官房長官に「新しい公共」を内容とする記念講演をいただき、役員一同決意を新たに活動していきます。

2011年10月7日(金)
第I部 記念講演「復興予算とこれからの日本」
仙谷由人 政策調査会長代行



被災地を訪ねて、見たこと、考えたこと 陸前高田

(財)ジオ政策研究所 顧問
国際ボランティア学会 会長
内海 成治



◇はじめに

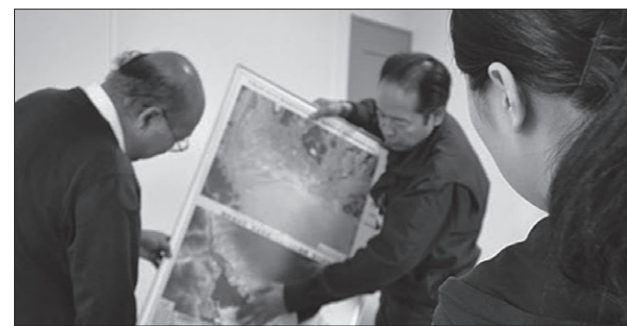
2011年3月11日、私は東日本大震災のニュース映像をスイスのベルンの宿で朝ご飯の時に見ました。前日からスイスのボランティア団体で救助犬の養成と訓練を行っている REDOG を訪ねておりました。その日の朝はCNNもBBCもずっと津波の様子を流していました。同行していたピース・ウインズ・ジャパン(PWJ)の大西健丞さんはすぐに宿を発って空港に向かいました。私はその日の夜の便で帰国しました。

日本に戻ってからは、津波の被害と原子力発電所の事故をかたずをのんで見守っていました。何ができるかを考えるために学生と一緒にPWJの大西さんを訪ね、学生はすぐに事務所で後方支援ボランティアを始めました。私は少し落ち着いたなら被災地を訪ねて、学生たちと一緒に何ができるかを考えたいと思いました。そこで、1ヶ月たった4月19日、お茶の水女子大学の教員や学生と東北に出かけました。それから毎月定期的に陸前高田といわきを訪れています。今回は特に陸前高田で感じたことを報告します。

◇最初の印象

初めて陸前高田に行ったのは4月20日(水)のことです。東北道は整備が悪く夜の走行は危険なので那須塩原に宿泊して陸前高田に入りました。一関から陸前高田までは2時間ほどの山道ですが、街の中心部から5キロ以上離れた気仙川までくると、両岸ががれきの山となっているのに愕然としました。陸前高田は気仙川のデルタに発達した街で、川沿いには鉄道が走り、多くの店や民家が立ち並んでいました。鉄道の駅舎も線路も全てが破壊されていました。

初めに同行したお茶大の教員の遠縁にあたる元市会議員の方のお宅に伺いました。まず、5つの遺影と遺骨が並ぶ仏間に通されお参りしました。「多くの親戚が津波で死んだのですが、遺骨を安置するところがないため、ここに



戸羽市長から復興計画について伺う

置いている」とのことでした。「岩手県はいち早く北海道から葬儀の手配したので、火葬にすることができました。ありがたいことです」との言葉に、胸ふたがれる思いでした。

それから海辺の市街地に向かいました。がれきを動かしてやっと道ができたところでした。道の両側にはがれきがうずたかく積み、ところどころにビルが残っています。最も大きいのが市役所でした。市役所の4階建てのビルも屋上まで津波が襲い、屋上の塔に掴まった人だけが助かったとのこと。その前の3階建ての教育委員会の入っていたビルは全滅したといいます。避難所になっていた体育館には多くの人が避難したのですが、天井近くまで波が襲い、天井の梁にひっかかった3人の方しか助からなかったと聞きました。こうした建物の前に来ると冷たい波に呑まれた人々の苦しみと無念さが、心に響きます。



陸前高田市街地

◇市長のお話

仮設の市役所に戸羽市長を訪ねました。市長ご自身が奥さんを亡くされました。「遺体が見つかっただけで喜んでいました」との言葉には思わず涙いたしました。私たちの質問にも丁寧に答えていただきました。

「震災後、阪神大震災や中越地震経験者から多くのアドバイスをいただいているが、津波による被害はこれまでの震災被害とは全く異なる災害でありあまり役立たない」「復興構想委員会はそれぞれの方の言うことが違うので、目的がはっきり伝わってこない」「復元ではなく、ゼロからの復興であり、昔の陸前高田のイメージから抜け出す必要がある。特に、若い人が住める街をめざしたい」「(皆さんのように地元を知らない)外部の人たちが、いろいろなオルタナティブを出してほしい」とのこと。

◇奇跡の一本松

7万本と言われた名勝高田松原は1本の松を残して全滅しました。その松のあった浜も地盤沈下でほとんどなくなっています。樹齢270年と言われる松は見上げるような高さの堂々たる松です。海側に国民宿舎があり、それが波を少し和らげたために残ったようです。しかし、葉は少し黄ばんでおり、すごく弱っているようでした。思わず「がんばっぺ」と叫びました。(12月14日の朝日新聞朝刊



には、「奇跡の松、『蘇生は絶望的』」との記事が出ていました。塩水で根が枯れてしまっているようです。)

◇私の感じたこと

陸前高田のなくなってしまった松原と海を見て、「地球が生きている」ということを実感しました。私たちは不変の大地と海に育まれた自然の中で生きているかのように感じています。大地は震え、海は動くのです。自然は決して普



セミナー報告

第1回 ジオセミナー

「サービス付き高齢者向け住宅を考える」

2011年9月14日(水)

10/20から登録が開始された、新たな高齢者向けの賃貸住宅制度「サービス付き高齢者住宅」について、開始に先立って、大阪府住宅まちづくり部居住企画課が説明。また、株式会社昭和設計千種常務からは、25m²の基準は画期的、介護施設のセミプライベートの空間としての考え方を伺った。社会福祉法人三秀會村木副統括からは、介護施設の収益性について分析をいただいた。



第2回 ジオセミナー

「どうなる日本のエネルギー政策、福島第一発電所の収束のゆくえは」

2011年10月20日(木)

関西電力労組坂元浩治副委員長に講師を依頼。電力労連中央の役員もされ、原発の現場で働いてこられた。福島第一原発の収束の見通し、福井原発の安全対策についてもお話を伺った。再生可能エネルギーと原子力のベストミックスという考えを提案された。



詳しくはホームページをご覧ください → www.gio.or.jp



2011年活動報告

7月27日 一般財団法人ジオ政策研究所 設立

9月14日 第1回ジオセミナー「サービス付き高齢者向け住宅を考える」

10月7日 一般財団法人ジオ政策研究所設立記念パーティー

10月20日 第2回ジオセミナー「どうなる日本のエネルギー政策、福島第一発電所の収束のゆくえは」